

# 京都大学の環境保全活動を振り返って

2006年度に始まった環境報告書の公表を一つのきっかけとして、京都大学での環境保全に向けての取り組みがそれまで以上に活発になされるようになりました。また、環境教育・研究活動も幅広く行われており、これらは社会からの期待も高く、今後ますます京都大学の果たす役割は重要になってくるでしょう。

トップコミットメントに挙げられているように、京都大学は日本全体の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量の約1万分の1を占めています。この事実を京都大学は重く受け止めています。2007度に「京都大学環境計画」として、優先的な5つの課題とCO<sub>2</sub>排出量の削減を含む具体的な取り組みをまとめました。環境配慮行動を推進する上で具体的な目標ができたことは、全構成員が一丸となり力を合わせて取り組むべき事項が明確になったことであり、大きな意義があると思います。

本報告書では、昨年度行った環境負荷削減活動を紹介しています。多くの取り組みを試み、また努力をしましたが、残念ながら2007年度はCO<sub>2</sub>排出量の削減目標は達成できませんでした。しかし成果を上げた取り組みもあり、それを良い事例として、これまで以上に工夫を凝らし啓発活動や省エネルギー対策に力を入れ、構成員に積極的な参画を呼びかけて、目標達成に向けて努力します。

今後は、これまでに確立した環境情報の収集手順を着実に実行し、各種の取り組みの効果検証にもさらに力を入れ、正確な環境情報の公開と、継続的な環境配慮行動を推進する必要があります。有効な取り組みは大学全体で実践できるよう、学内のコミュニケーション体制も充実させなければなりません。本報告書がその手段の一部となり、構成員の関心・意識が向上することを期待しています。

京都大学での環境保全活動の特徴の一つとして、ステークホルダー委員会の活動があります。2007年度は、初めて京都大学の環境保全活動についてご意見をいただきました。今年度から導入された「環境賦課金制度」をはじめ、京都大学での環境保全に向けての取り組みは一つのモデルとして、注目されていることがわかりました。これらの取り組みを次につなげることが、京都大学の重要な役割であると考えています。

安全管理担当理事 中森 喜彦